

〔女子準決勝A〕

七林	7 3	$\left\{ \begin{array}{cc} 2 & 4 \\ 1 & 1 \end{array} \right. \begin{array}{cc} - & 1 \\ - & 1 \end{array} \left. \begin{array}{cc} 0 \\ 1 \end{array} \right\}$	5 5	大網
(船橋)		$\left\{ \begin{array}{cc} 2 & 1 \\ 1 & 7 \end{array} \right. \begin{array}{cc} - & 1 \\ - & 2 \end{array} \left. \begin{array}{cc} 1 \\ 3 \end{array} \right\}$		(山武)

【評】

両チームハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。大網#1山内のミドルシュートで先制するも、七林#10鷺尾のレイアップシュートですぐさま同点にする。七林#12雨池を中心に七林は献身的にマンツーマンディフェンスを遂行する。第1Q中盤、早くも七林がオールコートプレスを仕掛ける。ここから七林#10と#12がミドルシュートやレイアップシュートを重ね、怒涛の得点ラッシュで一気に14点の差を広げ24-10で第1Qが終わる。

第2Qは大網#1のポストアップからのミドルシュートが決まるなど、得点を重ねる。対する七林も#12のドライブインから#11武田へのパスが冴え渡り、得点を重ねる。第2Qは両者どちらも譲らずの展開で11-11とし、前半を35-21の14点差で終える。

第3Qで流れを変えたい大網だったが、七林#9戸田がミドルシュートで先制し流れを作る。さらに七林#11はオフenseリバウンドをもぎとり、ゴール下シュートで得点することができ得点差の拡大につなげることができた。大網#73宮本は3Pシュートを入れ、タイムアウトから激しいハーフコートディフェンスを仕掛ける。一度戸惑う七林ではあったが、すぐに落ち着いて#5関がゴール下シュートでの得点を重ね、点差を24点に広げて56-32で第3Qが終了。

第4Q、序盤から大網はディフェンスでプレッシャーをかけ、#1と#81三島の連続3ポイントシュートで会場を沸かせた。更に#75日野の連続ドライブインで得点差を縮めるも、七林#9も連続3ポイントシュートで応戦。最後まで両者は全力で戦い抜き、73-55で七林がこの戦いを制した。

〔女子準決勝B〕

葛飾	3 6	$\left\{ \begin{array}{cc} 1 & 9 \\ 5 & - \end{array} \right. \begin{array}{cc} - & 1 \\ - & 1 \end{array} \left. \begin{array}{cc} 4 \\ 2 \end{array} \right\}$	6 1	昭和学院
(船橋)		$\left\{ \begin{array}{cc} 2 & - \\ 1 & 0 \end{array} \right. \begin{array}{cc} - & 1 \\ - & 1 \end{array} \left. \begin{array}{cc} 6 \\ 9 \end{array} \right\}$		(市川・浦安)

【評】

準決勝、関東大会出場をかけた戦い。両チーム、ハーフコートマンツーマンでスタート。1Q立ち上がり、葛飾は#6梁瀬のドライブイン、#8尾前のジャンプシュートで得点を重ね、序盤の主導権を握る。昭和学院は#6薬師寺の1対1を中心に、スピードのある攻撃でゴールに迫る。両チームとも持ち味を生かしたスタートとなった。1Qは、19-14で葛飾がリード。

2Q、昭和学院は#5吉田のキレのあるドライブインからリズムを掴む。葛飾も果敢に攻めるが、昭和学院の堅いディフェンスに中々得点を伸ばせない。残り時間3分で昭和学院が同点に追いつき、24-26昭和学院が2点リードで後半へ。

3Q、葛飾は再び#8尾前を起点に攻撃を展開するが、得点することができない時間が続く。ディフェンスから勢いをつけた昭和学院は、#4薬師寺の3Pシュートが決まり、徐々に点差を広げていく。26-42で昭和学院がリードを広げ、3Q終了。

4Q、後半の流れそのままに最後までリードを守った昭和学院が関東大会進出を決め、決勝へ。最後まで粘り強く戦った葛飾の健闘も称えたい試合であった。

〔男子準決勝A〕

八千代松陰中学校 (八千代)	5 8	$\left\{ \begin{array}{cc} 17 & - & 17 \\ 8 & - & 17 \\ 18 & - & 15 \\ 15 & - & 11 \end{array} \right\}$	6 0	ちはら台南中学校 (市原)
---------------------	-----	--	-----	--------------------

【評】

決勝進出をかけた戦い。ちはら台南、八千代松陰ともにオールコートマンツーマンのディフェンスで試合がスタートする。八千代松陰は、#5林を起点としたオフェンスで得点を重ねる。対するちはら台南は#7宮田の3P、ジャンプシュートなどで得点をし、一進一退の攻防を繰り返す。1Qは17-17で終了する。

2Q、八千代松陰は、ちはら台南のディフェンスに攻めあぐね、得点できない時間帯が続く。対する、ちはら台南はテンポよく点を重ね、2Qを25-34でちはら台南がリードして前半を折り返す。

3Qは、ちはら台南#4高橋の3P、#7宮田のジャンプシュートで加点し、点差を広げる。対する八千代松陰は#4大石ジャンプシュート、ドライブインからのパスなどで応戦する。終了間際、八千代松陰#5林のスクリーンプレイからの3Pが決まるが、6点差でちはら台南がリードして終了する。

4Qは、八千代松陰#8大竹の3Pなどが決まり、同点にする。しかし、ちはら台南#7宮田の3Pですぐさま突き放す。終盤は1ポゼッション差で試合が進んでいくが、最後は、ちはら台南が2点差で勝利し、関東大会への切符を掴んだ。惜しくも敗れはしたものの最後まで熱戦を繰り返した八千代松陰の姿に健闘を称えたい。

〔男子準決勝B〕

大網 (山武)	5 8	$\left\{ \begin{array}{cc} 13 & - & 23 \\ 13 & - & 15 \\ 17 & - & 20 \\ 15 & - & 15 \end{array} \right\}$	7 3	上志津 (印旛)
--------------	-----	---	-----	---------------

【評】

準決勝、大網对上志津。大網はオールコートディフェンス、上志津はハーフコートディフェンスでスタート。大網は#31 加藤がドライブし、先制点を取る。上志津は#12 山下、#28 吉野を起点に序盤から点差を広げ、1Qは13-23。上志津が10点のリードで終了。

続く2Qは序盤から大網が激しいディフェンスを仕掛ける。#31のスティールや#00 保坂の3Pで勢いづくも点差は縮まらず、一進一退の攻防が続く。そのまま前半が終了し、26-38のスコアで後半戦へ。

後半戦。3Qの始め、大網の#31が先制点を取り勢いづくも、上志津#12が連続得点を決める。大網はタイムアウトを挟み、#31、#38 櫻井のダブルチームで相手からボールをスティールし、連続得点を決めて巻き返しを図るも点差は縮まらず。上志津が15点リードして終了する。

4Qは上志津の先制点で始まるも、大網がゴール下で粘り強さを見せ、得点を重ねる。一進一退の攻防が続く中、上志津は終始落ち着いたプレーを見せ、大網に勢いづかせないまま逃げ切り、そのまま勝利を収めた。

確実に点を取り、冷静にプレーを進めた上志津と最後まで粘り強く戦った大網の両チームの健闘を称えたい試合となった。

〔女子決勝〕

七林	5 5	$\left\{ \begin{array}{rcl} 9 & - & 18 \\ 11 & - & 19 \\ 16 & - & 14 \\ 19 & - & 8 \end{array} \right\}$	5 9	昭和学院
(船橋)				(市川・浦安)

【評】

決勝戦、七林はハーフコートディフェンス、昭和学院はオールコートディフェンスで始まる。七林は#11武田を起点としてインサイドにボールを集めるが、昭和学院の強固な守備によりゴールに結びつかない。昭和学院は#7木内のスティールから得点し、立て続けに昭和学院のドライブが決まり、1Qは9-18でリードする。

続く2Qは、七林#12雨池のドライブや3Pで応戦するも昭和学院#5吉田のスティールからの速攻や3Pを決め、20-37で前半を終えた。

後半、七林#10鷺尾のドライブからのジャンプシュートやセットプレーにより得点を重ねるが昭和学院#6薬師寺によりのポストプレーやジャンプシュートによりなかなか点差を縮めることができず、3Qは36-51で終了。

4Q、七林がオールコートマンツーマンディフェンスでダブルチームを仕掛ける。激しいディフェンスによるスティールからの速攻となり、徐々に点差を縮める。残り1分20秒、アンスポーツマンライクファールもあり、七林がこの日最高の流れをものにする。点差を15点差から4点差まで詰める追い上げを見せるが昭和学院の巧みなパスワークやカットインプレイに惜しくも届かずタイムアップ。お互いに最後まで諦めず全てを出し切った両チームに会場は拍手で終わる素晴らしい決勝戦であった。

〔男子決勝〕

ちはら台南	6 9	$\left\{ \begin{array}{rcl} 16 & - & 19 \\ 9 & - & 17 \\ 23 & - & 19 \\ 21 & - & 17 \end{array} \right\}$	7 2	上志津
(市原)				(印旛)

【評】

決勝戦は、ちはら台南対上志津、両チームともにハーフコートマンツーマンでスタート。上志津#12山下のドライブインがバスケットカウントとなり、これが先制点となる。フリースローも決めきり、#28吉野とともに安定した試合運びを続ける。対してちはら台南#11江連もドライブインからバスケットカウントで応戦し、速い展開でリズムを一気に掴みにかかる。アウトサイドからのドライブインから得点を重ねる。ちはら台南は積極的なディフェンスと速攻、上志津は安定感のあるインサイドプレー、互いに強みを生かした展開で、両者主導権を譲らず、16-19のスコアで終える。

2Qは、ちはら台南#11のジャンプシュートで先制する。上志津も#12がジャンプシュートで点を取り返し、上志津の強固なディフェンスとリバウンドが徐々にちはら台南のオフェンスを封じ始める。上志津のアウトサイドシュートも決まり始め、25-36の11点差で上志津がリードして前半が終了した。

3Q、ちはら台南#9川上のゴール下で先制し、ディフェンスのプレッシャーを一気に強めたちはら台南の猛攻が始まる。両チームともにアップテンポな試合展開となり、点の取り合いとなる。ちはら台南の積極的なダブルチームによるディフェンスに対し、上志津#28の安定したボール運びとアシストで応戦し、一気に点差を縮めたかったちはら台南だったが、上志津も点の取り合いに応戦する展開が続いた。

4Q、ちはら台南は足を止めずにオールコートディフェンスを展開。#4高橋が立て続けに得点を重ね、5点差まで追いつく。すかさず上志津はタイムアウトをとりリズムを変えようとするが、その後もちはら台南#4、#11の連続3Pが決まり、一気に3点差まで追いつく。上志津は#12が自分に集まるディフェンスのプレッシャーを冷静にかいくぐり、味方の#11松岡などにアシストを重ねて応戦する。最後まで粘り強く追いつこうとするちはら台南から、冷静な試合運びで上志津が逃げ切り試合終了。決勝戦にふさわしい熱戦に会場は拍手に包まれた。